マリナ『うちゅ・・んっ・・ちゅ』

柔らかな唇に男はむしゃぶりつく。

キスをしながらも男はピストンを続ける。

上と下の両方の口で絡み合う。

二人は一つになって蕩けあうような感覚に落ちる。

マリナ『いいのっ！んっちゅう！・・もっと激しくっ！んんっ！』

唾液が絡み合い、口の間に糸を引く。

腰を振りながら、舌で口内をかき回す。

マリナ『んちゅっ！・・あんっ！・・・んちゅ！』

男はマリナの唾液を味わうたびに、体が火照っていく感覚を覚えた。

今まで感じた事がないほどペニスが張り詰めている。

男『はぁっ・・はぁっ・・・・気持ちよすぎる！』

腰を振り続ける男。

肉がぶつかり合い身体が揺れる。

マリナ『あんっ・・！いいのっ！！・・んんっ！！』

肉棒が暖かい蜜壺に包まれる気持ち良さ。

男は快楽に溺れていく。

目の前の雌を犯す事しか考えられない。

その時である。

男の心臓がドクンと一際大きく跳ね、体の奥が熱を帯び始める。

男『ぐっ・・！なんだこれは・・体が・・熱い・・・・っ！』

体の奥から熱い何かが湧き上がってくる感覚。

これは明らかにおかしいと感じる男。

たが腰の動きが止まらない。

マリナ『んっ・・ふふふ、そろそろね・・・大丈夫よっ・・・・そのまま・・快楽に身を任せて』

マリナ『あんっ・・んっ・・・・本当の貴方へ変わり始めたのよ』

男の変化をあらかじめ予知していたかのように話すマリナ。

男『はぁっ・・はぁっ・・・何を言って・・・・ぐっ・・・・！』

湧き上がる何かが股間に集まり、熱くなっていく。

性器が破裂するのではないかというほど張り詰め、血管が血走っていく。

男『ぐっ・・！うっおおおおお！』

ビキビキと音を立て、男の性器は異形へと変わった。

ペニスは肥大化し、赤い甲殻に覆われた硬質なものに変わっている。

陰嚢も大きくなり、オレンジの半透明のそれは、まるで何かの卵のようなモノに変化していた。

マリナ『あんっ、凄いっ・・！』

マリナは自分の秘所を貫く異形の性器を、うっとりと見つめる。

男の異形の性器はビクンビクンと蠢く。

男『なんだこれは・・俺のチンコが・・・』

マリナ『私の体液に含まれるナノマシンが、貴方の体を変え始めたの。人間から怪人へと』

男『・・怪人？』

男は変化に驚きながらも、なんとか平静を保とうとしていた。

マリナ『そう、人間をはるかに超えた存在・・・貴方は選ばれたの』

マリナ『さぁ・・貴方はどうしたいの？』

男『俺は・・・・』

男『・・・・・・』

状況が飲み込めず、戸惑う男。